

横浜市における国際園芸博覧会の検討状況

横浜市



国際園芸博覧会を開催するための基盤

- (1) 地域整備の方向性について
- (2) 輸送計画について



(1) 地域整備の方向性について

旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（素案）

<まちづくりのテーマと方針>

テーマ 郊外部の新たな活性化拠点の形成
～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～

【方針1】

多様な交流による、
賑わいと活気のあるまち

- ① 集客機能の導入による、
交流人口の増加
- ② 交通利便性をいかした、
企業などの立地による
経済活性化
- ③ 周辺施設と連携した、農業
の展開による地域活性化
- ④ レクリエーションの場の
創出

【方針2】

活力ある都市農業と緑を
いかした魅力あるまち

- ① 賑わいと食・農業の連携
による新たな都市農業の
展開
- ② 都市農業を支える
生産基盤の整備
- ③ 緑の空間の保全と創出
- ④ グリーンインフラの活用
- ⑤ 国際園芸博覧会のレガシ
ーを継承する拠点の形成

【方針3】

将来にわたり、安全安心
で、利便性の高いまち

- ① 地域や広域レベルでの
災害対応力の強化
- ② グリーンインフラも活用
した防災・減災対策の推進
- ③ 道路アクセスの強化と地区内
の道路ネットワークの形成
- ④ 新たな交通の導入
- ⑤ 将来想定される課題への
対応
(医療、福祉、公園型墓園等を検討)

(1) 地域整備の方向性について

<土地利用ゾーンの内容と配置>

農業振興ゾーン（概ね50ha）

農産物の収穫体験や滞在しながら農の魅力を味わう農体験、ICTなど最新技術を活用し、質の高い農産物を安定して生産することによる「収益性の高い農業」の展開、大学と連携した農業技術の研究など、他の地域へも波及する新たな都市農業モデルとなる拠点を形成します。

観光・賑わいゾーン（概ね125ha）

テーマパークを核とした複合的な集客施設が立地し、国内外から人を呼び込む観光と賑わいの拠点を形成します。

物流ゾーン（概ね15ha）

東名高速道路や保土ヶ谷バイパスなどの広域的な幹線道路との近接性をいかし、新技術を活用した効率的な国内物流を展開する新たな拠点を形成します。

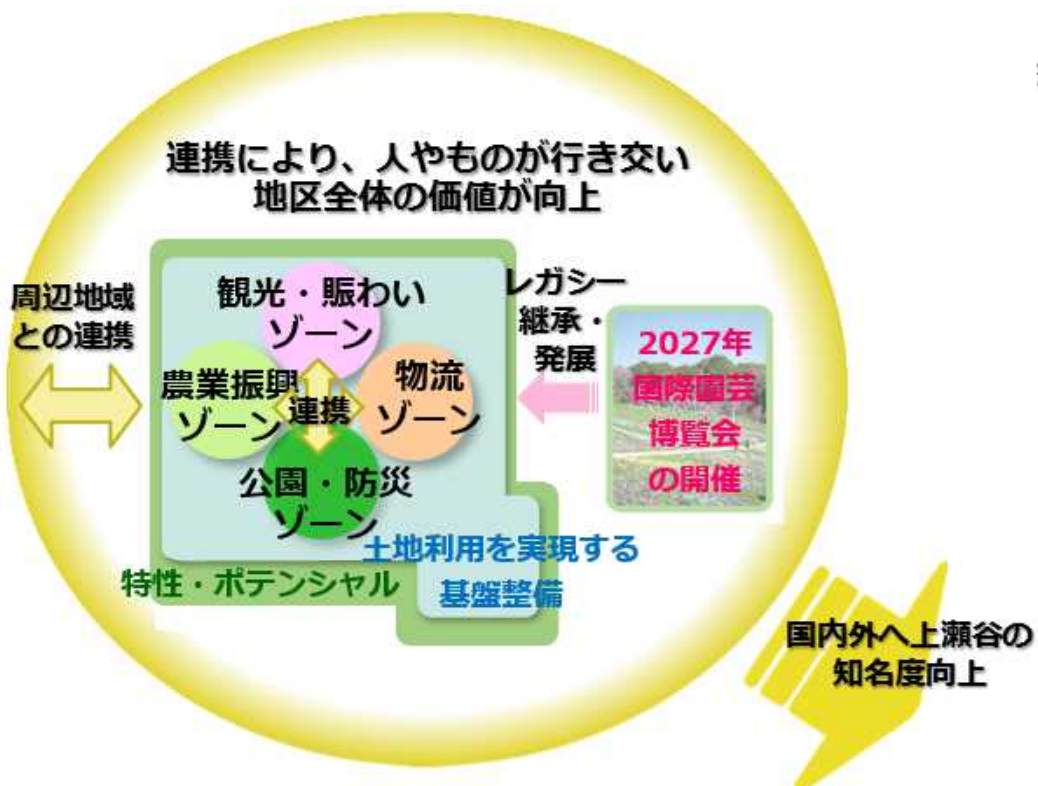
公園・防災ゾーン（概ね50ha）

国際園芸博覧会のレガシーを継承する公園や災害時における広域的な防災拠点（応援部隊の受援施設等を備えた広域応援活動拠点としての機能や広域避難場所としての機能）等を形成します。



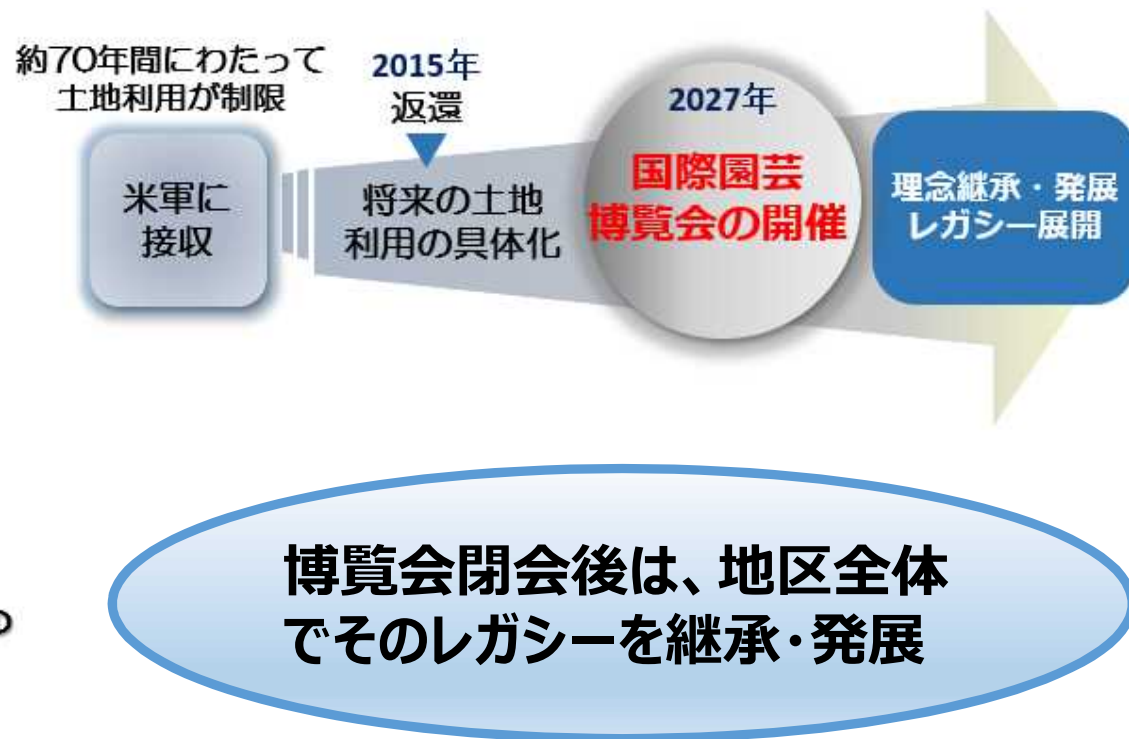
(1) 地域整備の方向性について

<ゾーン間及び周辺地域との連携>



土地利用の考え方のイメージ

<国際園芸博覧会との関係>



<今後の予定>

令和2年1月15日～2月14日 : 市民意見募集

令和2年3月末までに : 「基本計画」を策定



(1) 地域整備の方向性について

博覧会の会場用地の確保の考え方

- 土地区画整理事業を活用して国有地を集約すること等により、博覧会後に都市公園となる区域を含む80～100haを会場用地として確保
- 早期に土地区画整理事業及び都市公園事業による基盤整備工事に着手することにより、博覧会の会場整備に必要な工事期間を十分に確保

 : 博覧会会場の想定区域



図：土地利用ゾーン

(2) 輸送計画について

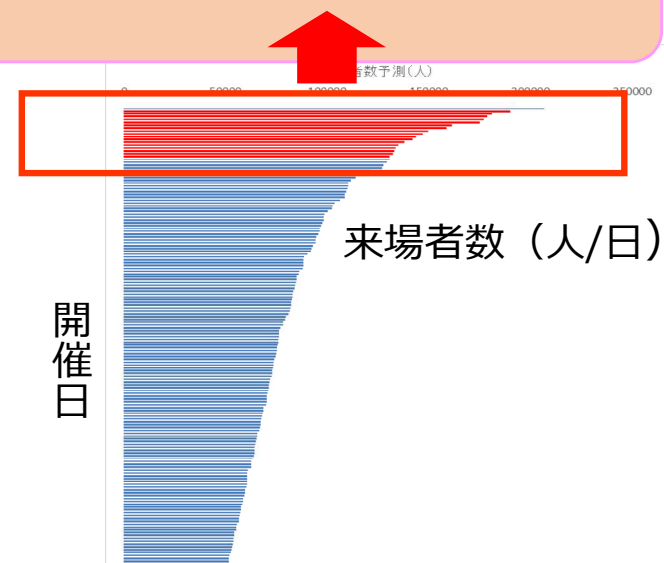
来場者予測シミュレーション（令和元年度）

来場者数：1500万人（国内 1425万人、国外 75万人）と設定

1日あたりの想定来場者数：約15万6千人（上位10%の日の平均値）
（計画日来場者数）

来場者の傾向

- ・利用する交通手段
- ・入退場時間帯
- ・滞留時間 等



輸送計画の立案



(2) 輸送計画について

輸送計画(素案)の概要

交通手段 (割合)	計画日來場者数への対応	左記を超える日への追加対応
自家用車 (約43%)	・会場近接地に駐車場を確保 ・パーク・アンド・ライドの導入	・自家用車抑制・平準化策 (駐車場料金設定、予約制導入等) ・駐車スペースの確保 (大規模商業施設との連携等)
団体バス (約16%)	・会場近接地に乗降用のバスベイを設置	
公共交通機関 (約40%)	・相鉄線瀬谷駅から新たな交通を運行 ・各鉄道路線最寄り駅等からシャトルバスを運行	・シャトルバスの増便等
その他(徒歩・二輪) (約1%)	・駐輪場の整備等	

※輸送の円滑化のため、将来の土地利用計画と整合を図りながら、環境負荷の低減等も考慮しつつ、交通混雑緩和のための道路機能の強化（道路の新設、拡幅、交差点改良等）や相鉄線瀬谷駅を起点とした新たな交通（中量軌道等）を含めた多様な交通手段を検討

1. 事業展開について

- (1) 事業コンセプト（シーン展開の方向性）

2. 事業構成について

- (1) 会場構成
- (2) 各景（Scenery）での展開イメージ

3. 横浜市の今後の取組について

- (1) コミュニケーション戦略の策定と全国的な誘致推進組織の設立
- (2) 国際園芸家協会（AIPH）春会議での検討状況の報告
- (3) 博覧会基本計画の策定に向けた検討

1 事業展開について

市基本構想案（H30.3）における事業コンセプト等

基本理念

横浜・上瀬谷で花と緑等をシンボルに、地球環境の持続、経済成長、成熟社会等を展望した未来志向の国際園芸博覧会を開催

メインテーマ「幸せを創る明日の風景」

事業コンセプト（博覧会の方向性）

博覧会の様々な要素を風景（SCENE）と捉え、花や緑はもちろんのこと、農や食、大地や交流を要素としてつながる幅広い領域と連携し、感動を呼び、記憶に残り、幸せを深め、明日を感じ、将来につながる時間や空間を創り出すこととする。

その際に、国際園芸博覧会を通じて新たな感性や価値を創造する視点として、

- 普遍性と先進性を体感—新たな行動と創造につなげる博覧会
- 多様性と寛容性を共感—より深く浸透させる博覧会
- シェアとリンクを実感—社会全体に広める博覧会

事業コンテンツ検討の6つの要素

花

緑

農

食

大
地

交
流



1 事業展開について

地球規模の環境変化

- ・地球温暖化
- ・途上国における人口増加
- ・人口増加に伴う食料問題
- ・自然資源の過剰利用
- ・生態系サービスの減少
- ・生物多様性の喪失 等

国内の環境社会・ 情勢の変化

- ・人口減少の進展
- ・急速な高齢化、長寿命化
- ・コミュニティの喪失
- ・自然災害の激甚化、頻発化
- ・中山間地域の山林や農地等の荒廃
- ・テクノストレスの増加 等

技術革新と 経済のグローバル化

- ・AI・IoT等の新技術の進展
- ・遺伝子レベルでの技術進化
- ・経済のグローバル化
- ・地球規模での人的交流の活性化 等

社会的大変容への対応が必要

1 事業展開について

自然資源の大量消費やエネルギーの浪費などに支えられた

これまで

「豊かさの量的拡大を求める社会」

「人と自然との関わり」や
「環境保全と経済発展のバランス」
に着目

SDGsの達成 Society5.0の実現

目指す社会

「豊かさの質を深める社会」

- 国際園芸博覧会を通して目指す「豊かさの質を深める社会」
 - ・ 自然と共生した環境負荷の少ない持続可能な社会
 - ・ 花・緑・農などの自然が身近にあふれた美しく安全な社会
 - ・ 分かち合いとつながりのある、心豊かで健やかな社会

1 事業展開について

横浜における国際園芸博覧会では、「豊かさの質を深める社会」に向け、

SDGsの達成やSociety5.0の実現をはじめ、さらにその先の社会(2050年)に向け、バックキャストの視点を持って、グリーンインフラの多様な機能を活かし、課題解決の方法や社会のあり方などを提案する。



「**豊かさの質を深めて幸せを創る**」ための**行動**をすべての人が「開催までのプロセスを含め、自ら主体的に取り組むべき自分ごと(ジブンゴト)」として認識し、自らの行動を変え、さらに社会の仕組みを変える契機とする。

1 (1) 事業コンセプト（シーン展開の方向性）

「豊かさの質を深めて幸せを創る」ための行動を主体的に行う
人・企業・コミュニティを増やすとともに
課題を解決し、社会のあり方を変える

「風景」の構成要素である
「空間」「技」「人」に着目

空間・時間

風景・景観の リデザイン

花・緑・農・大地を活用した
美しく安全な都市や空間の
モデルを提示

知恵・技術・仕組

環境共生社会 へのチャレンジ

最先端技術と伝統の知恵
を活かした持続可能な社
会への更なる挑戦

人の活動と交流

つながりがもたらす イノベーション

交流を通じた感動・いやし・
安心と、共生のムーブメント
創出

1 (1) 事業コンセプト（シーン展開の方向性）

空間・時間に着目

風景・景観のリデザイン

～花・緑・農・大地を活用した美しく安全な都市や空間のモデルを提示～

◇都市と緑・農が融合した次世代都市モデル

- ・花や緑・農を媒介として、自然の持つ機能を賢く活用した安全で快適な都市モデルを提示
- ・グリーンインフラを基盤とするまちづくりの効果の可視化 等

◇世界の多様な地域・園芸文化へのいざない

- ・海外と日本の庭園文化、園芸文化等の展示
- ・最新の園芸植物・農作物の展示 等

1 (1) 事業コンセプト（シーン展開の方向性）

知恵・技術・仕組に着目

環境共生社会へのチャレンジ

～最先端技術と伝統の知恵を活かした持続可能な社会への更なる挑戦～

◇ 自然の機能を活かす最先端の知恵と技術

- ・IoTやAI等を活用した生産性が高く環境負荷の少ない農業生産技術の提示
- ・バイオマスを活用した物質生産・エネルギー生産技術の提示 等

◇ 環境負荷の低減と利便性を両立する暮らしの知恵と技術

- ・ゼロエミッション、ゼロカーボン、食品ロスゼロ等を目指す技術・仕組み等の提示
- ・伝統的な自然共生の知恵と技術の提示 等

1 (1) 事業コンセプト（シーン展開の方向性）

人の活動と交流に着目

つながりがもたらすイノベーション

～交流を通じた感動・いやし・安心と、共生のムーブメント創出～

◇ 花・緑・農・食が拓く心豊かで健やかな生活

- ・五感により花・緑・農・食を体験し、自然とのつながりが生活にもたらす効果を実感
- ・教育、医療、福祉、芸術等への花・緑・農・食の領域拡大による新たな価値やサービスを提示 等

◇ 時間と空間をシェアする喜びと友好平和の共生社会

- ・準備段階からの国内外の多様な市民・企業の参加と協働、多様な国や人々の参加と交流によりもたらされるコミュニティの再構築、友好平和・多文化共生の深化
- ・日本各地の観光資源等を活用したツーリズムやビジネスの発展 等

1 (1) 事業コンセプト (シーン展開の方向性)

○事業コンセプト

風景・景観の
リデザイン

環境共生社会
へのチャレンジ

つながりがもたらす
イノベーション



○横浜・上瀬谷の魅力と活力を発信する要素



花



緑



農



食



大地



交流



来場者が「気づきを得て、楽しめる」コンテンツを展開し、
<出会い> <感動> <体験> <学び>を提供

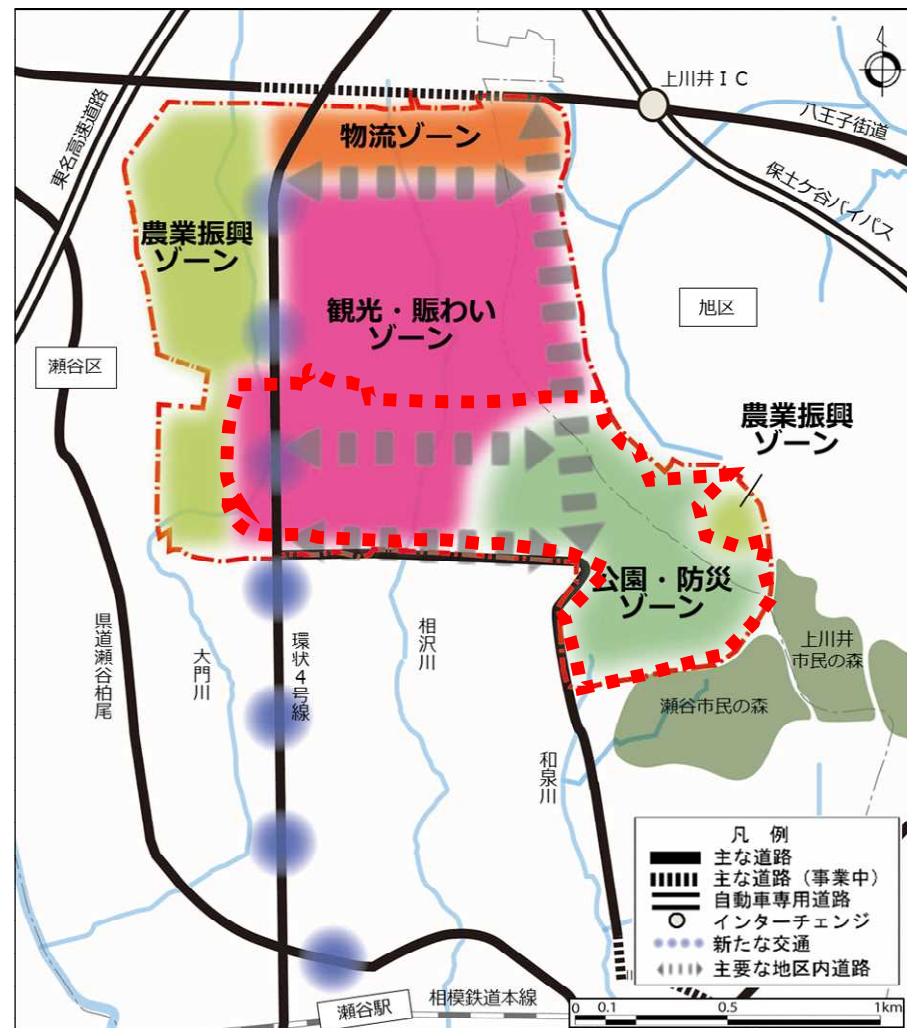
2 (1) 会場構成

<会場位置 (想定区域)>

 : 博覧会会場の想定区域



図：航空写真



図：土地利用ゾーン (※)

※ 旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（素案）より

2 (1) 会場構成

＜会場構成の方法＞

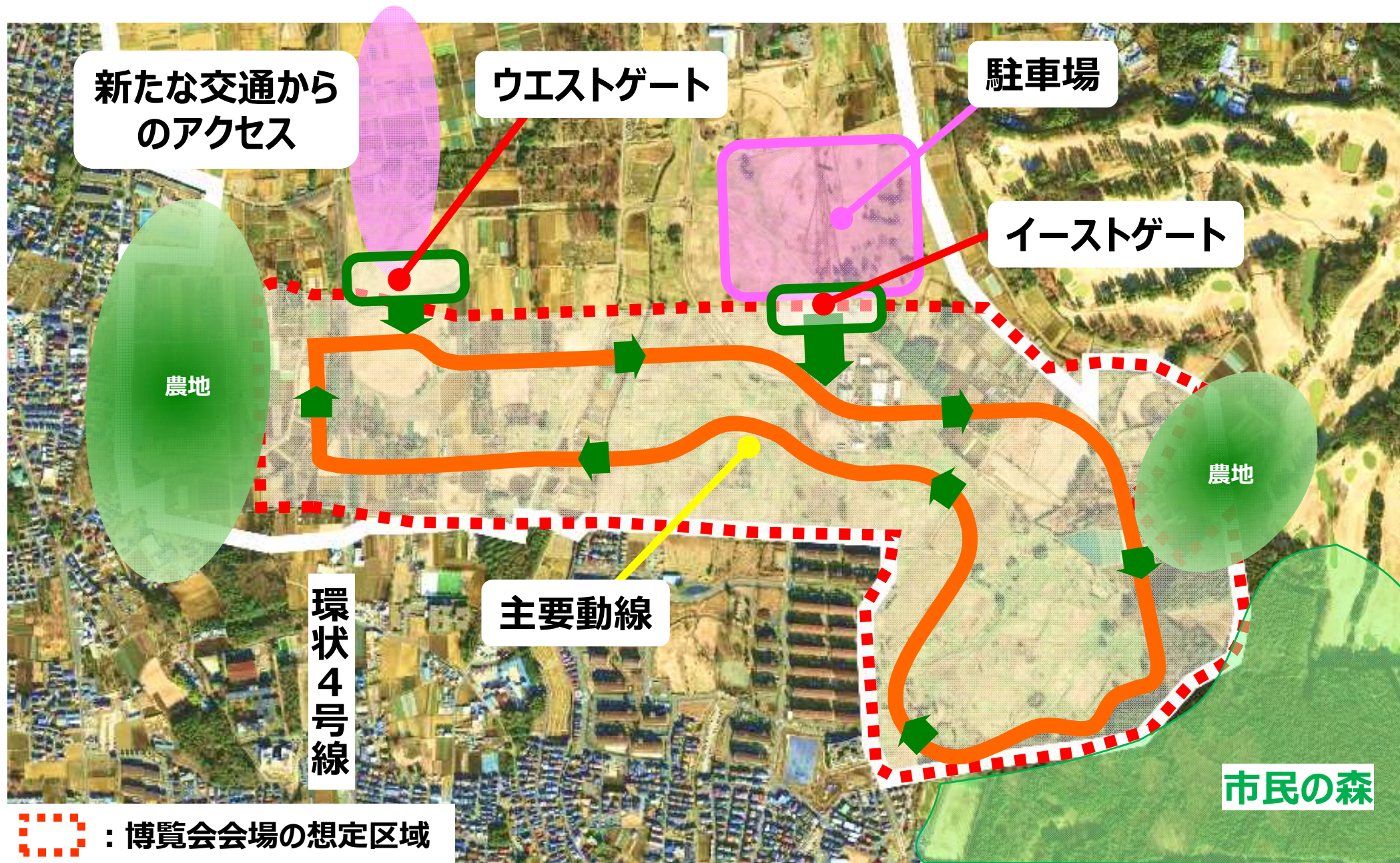
■ 土地・地形、水系、緑地、施設、活動など多様な要素を重ねることで、
会場内に様々な景(Scenery)を展開し、
「重層的かつ動態的」な会場を構築

■ **日本的な空間づくりの思想と技術**を重視し、
「日本庭園の手法」を活用



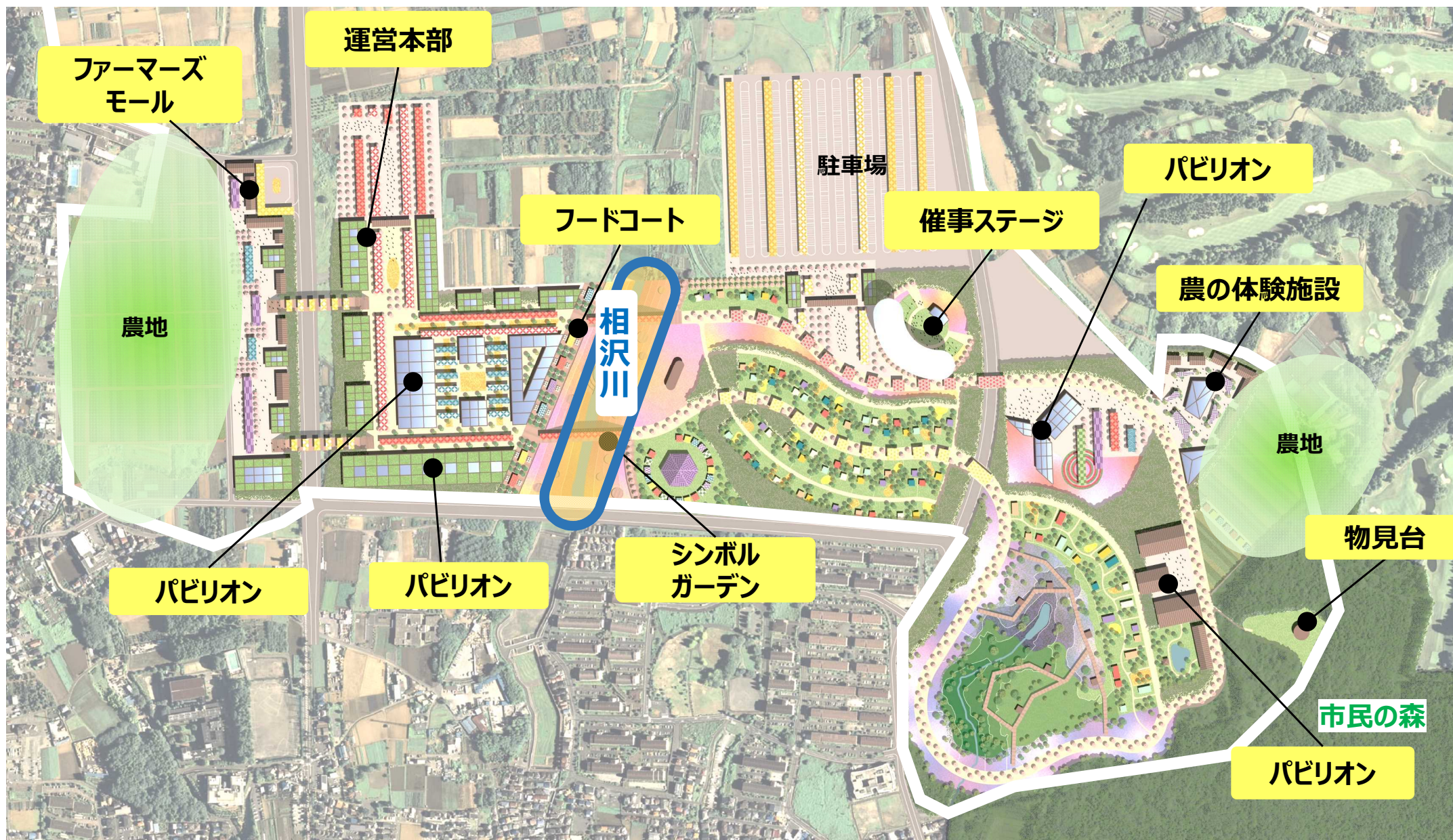
2 (1) 会場構成

<エントランス・主要動線の設定 (イメージ) >



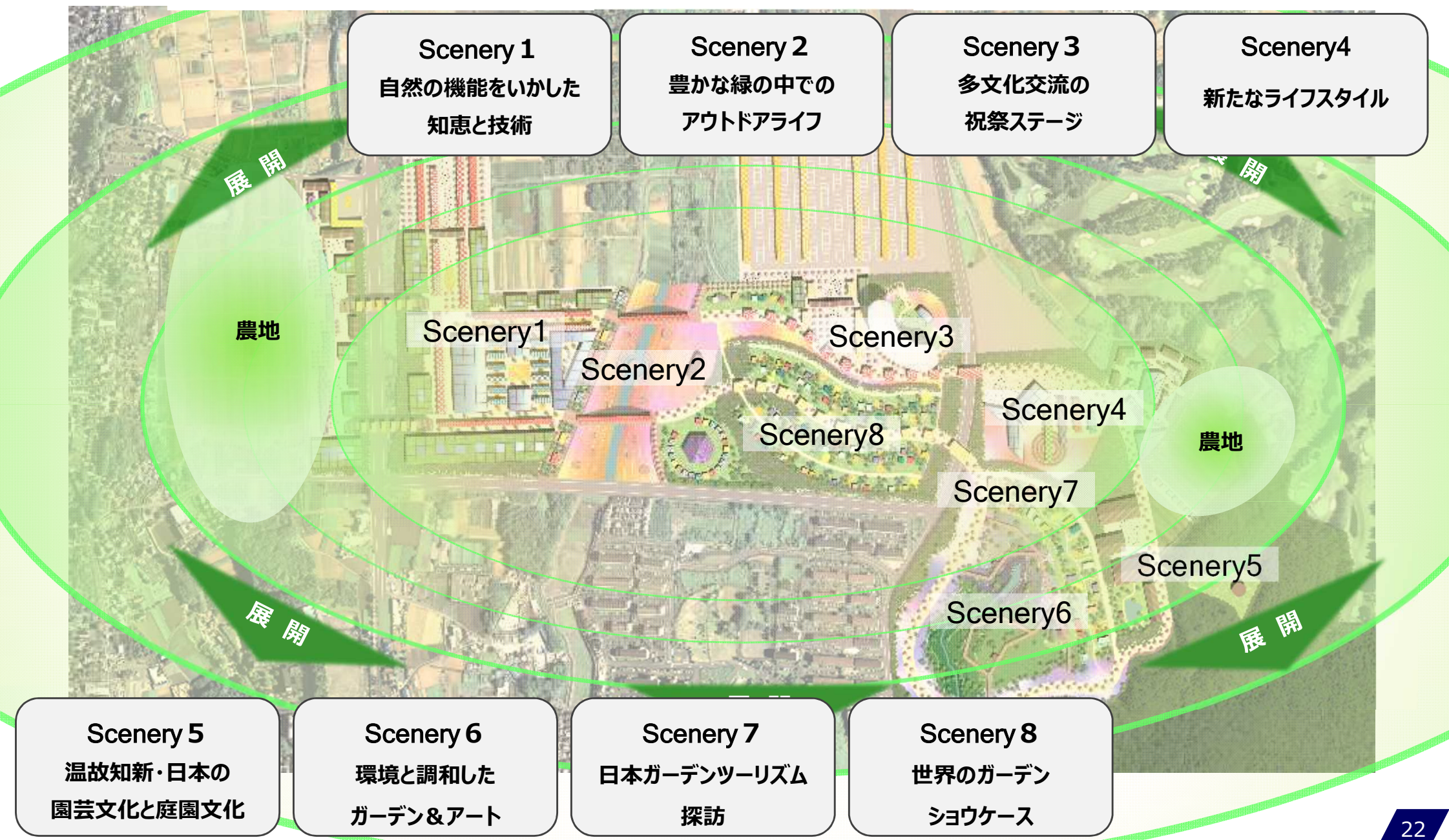
2 (1) 会場構成

<主要施設の配置 (イメージ) >



2 (1) 会場構成

<会場展開 (イメージ)>



2 (2) 各景 (Scenery) での展開イメージ

Scenery 1

自然の機能をいかした知恵と技術

- 最先端の花緑の環境技術・研究・社会実験等の展示
- 最新の花緑とふれあえるマーケットストリート等賑わいと活気あふれる空間
 - ・自然環境を模したドーム型植物園
 - ・未来植物工場や宇宙時代の栽培技術
 - ・スマート農業(AI、ICT等)
 - ・最新バイオテクノロジー、品種改良技術の紹介
 - ・空中大花壇
 - ・フラワーマーケットストリート など



Scenery 2

豊かな緑の中でのアウトドアライフ

- 谷戸地形を活かした緑豊かな環境の中で様々なアウトドアライフ（食、遊び、スポーツ、読書、アート、ワークショップ等）を体験
 - ・シンボルガーデン（相沢川谷戸ガーデン）
 - ・キッズガーデン
 - ・ピクニックガーデン
 - ・アート・クラフト系ワークショップ
 - ・森のようちえん
 - ・プレイパーク など



2 (2) 各景 (Scenery) での展開イメージ

Scenery3

多文化交流の祝祭ステージ

- 日本と世界の文化・芸術の交流拠点としての催事空間
- 微地形を活かした屋外劇場を整備、自然を体感できるランドスケープ
 - ・公式式典
 - ・コンサート、演劇、市民イベント
 - ・市民団体の全国大会・フォーラム等の開催
 - ・ナショナルデー式典
 - ・国内外の市民、企業、団体との交流
 - ・企業等の活動披露 など



Scenery4

新たなライフスタイル

- 既存の里山的環境を活用した次世代の都市モデル、生活、技術の融合した、次世代の暮らしの未来像を提案
- 地域の方々と連携した農の展示
 - ・次世代都市モデルタウン
 - ・ヒーリングセンター(農を利用した園芸療法等の体験等)
 - ・ソーラーシェアリング
 - ・農を支える生活スタイル
 - ・横浜館、横浜出展花壇(花苗の生産・新品種の普及等)・エディブルガーデン など
 - ・ソーシャルファーム(農福連携)
 - ・地産地消レストラン
 - ・農体験(収穫体験等)
 - ・近未来の農のある生活



2 (2) 各景 (Scenery) での展開イメージ

Scenery 5

温故知新・日本の園芸文化と庭園文化

- 横浜園芸博のHost Gardenとして日本いにしへの園芸文化と庭園文化を振り返る、未来の園芸文化へのメッセージを発信

- ・ 日本政府館（盆栽、生け花、浮世絵、国内最新園芸植物、全国のツーリズム(グリーン・アグリ・エコ等)の紹介 等)
- ・ 日本庭園（華道、茶道体験等）
- ・ 日本の伝統的な自然のいのちの技術・知恵の展示
- ・ 迎賓館
- ・ VRでの森林・里山体験
- ・ 造園技術の実演 など



Scenery 6

環境と調和したガーデン&アート

- 緩やかな起伏の広がる環境を活かしたナチュラルガーデン
- 世界のトップガーデンデザイナーとアーティストがコラボレートし、創造的な花の景観と伸びやかな草地进行できるランドスケープを展開
- ・ 感動を呼ぶ大花壇
- ・ アースアート
- ・ AR技術等を活用した仮想体験
- ・ 体験する花壇（花のスイーツ、香水調整等、ジップライン等）
- ・ 市民と共につくるナチュラルスティックガーデン、種だんご花壇 など

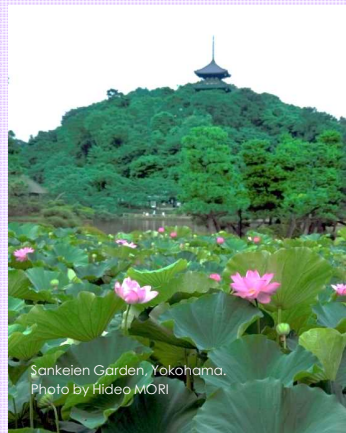


2 (2) 各景 (Scenery) での展開イメージ

Scenery 7

日本ガーデンツーリズム探訪

- 北から南の変化に富んだ日本の豊かな環境を体感できる国内出展エリア
- 観光立国の象徴としてのJAPANガーデンツーリズムを凝縮したランドスケープ
 - ・国内出展庭園（官民共同出展）
 - ・全国のガーデンツーリズムの紹介
 - ・VR等を活用した日本全国の花の名所鑑賞 など



Scenery 8

世界のガーデンショウケース

- 世界各国が提案するライフスタイルに出会える国際出展庭園エリア
- 世界の各国が提案する次世代のアウトドアリビングや伝統的な庭園を巡る
 - ・国際出展庭園（展示館）
 - ・ワールドマルシェ
 - ・世界の食が楽しめるレストラン
 - ・世界の庭園コンテスト
 - ・世界から造園技術者を集めた研修会 など



3. 横浜市の今後の取組について

(1) 「コミュニケーション戦略」の策定と 「全国的な誘致推進組織」の設立

- ・2027年の国際園芸博覧会を国内外で盛り上げるため、①広報PR、②機運醸成、③市民協働を柱とした「コミュニケーション戦略」を策定
- ・また、全国的な機運醸成とともに、博覧会の開催組織となる「博覧会協会（仮称）」の設立準備等を行う「全国的な誘致推進組織」を設立予定



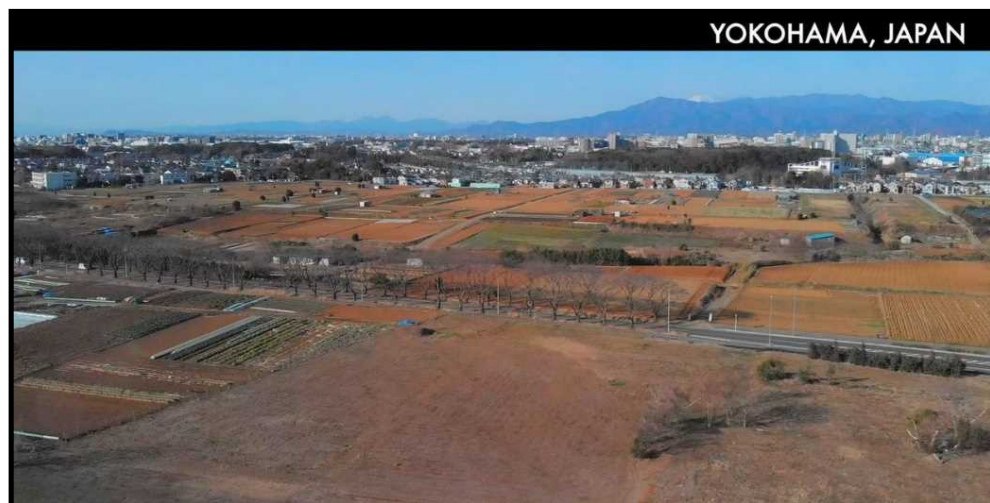
3 (1) コミュニケーション戦略

- 博覧会開催に向けた広報PR・機運醸成だけでなく、閉会後も博覧会のテーマ「幸せを創る明日の風景」の理念やレガシーを次世代に継承
- 「コミュニケーション戦略」の柱は、
 - ① 広報PR、② 機運醸成、③ 市民協働

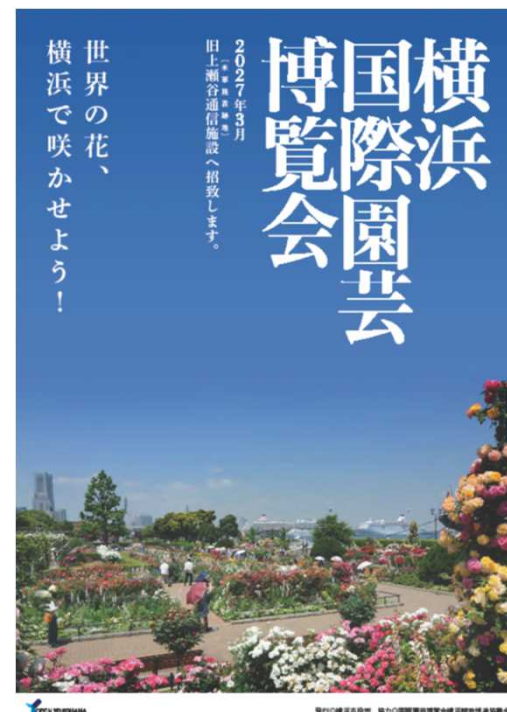


3 (1) コミュニケーション戦略 ①広報PR (国内)

- これまで、平成31年 3 月に策定した広報戦略に基づき、広報PRの事業を実施。地元の広報に重点を置き、映像・チラシ等の広報ツールでPR
- 今後、**全国的な広報に重点**を置き、全国の市民・事業者の関心を高める。また、博覧会協会（仮称）設立後は、シンボルマークやマスコット、テーマソング等を**市民・企業等の参加型で制作**することを検討。**SNSや国内外のインフルエンサー等**を活用した**情報発信・拡散**を図る



映像「横浜市の国際園芸博覧会の招致」



チラシ等の広報ツールでPR

3 (1) コミュニケーション戦略 ①広報PR (国外)

- これまで、北京国際園芸博覧会の日本国政府出展内やジャパンデー、横浜で開催された第7回アフリカ開発会議等で招致をPR (2019)
- 今後、**横浜市の姉妹・友好・パートナー都市等と連携し**、参加招請につなげる。
また、アフリカは重要なパートナーであり、駐日アフリカ大使館 (38か国) とのネットワーク等、**過去3回のTICAD開催都市**として築いた**アフリカ各国とのこれまでの絆**を活かし、アフリカ各国等が参加したくなる機運の醸成を検討し、参加招請につなげる



AIPH総会 (2019.9)



北京国際園芸博覧会でのPR (2019.9)



第7回アフリカ開発会議 (2019.8)

3 (1) コミュニケーション戦略 ②機運醸成

- これまで、地元の行政機関、経済界等による協議会を設立。地元が協力して誘致活動を実施。旭区の里山ガーデンフェスタでフォトスポットを出展（2019）
- 今後、**全国的な誘致推進組織を設立**し、全国的な機運を醸成。
 - ・国内外の市民・NPO・事業者・大学等、**多くのステークホルダーと双方向でコミュニケーション**し、主体的で多様な関わり方を創出
 - ・数年前から、**市民協働型のイベントを実施**
 - ・**大阪・関西万博と連携**しつつ、異なる魅力を発信し、日本全体で相乗効果を生む



横浜誘致推進協議会 設立総会（2019.5）



里山ガーデンフェスタでフォトスポット出展（2019.9-10）

3 (1) コミュニケーション戦略 ③市民協働

- 横浜市は「**市民協働**」の先進自治体。平成11年に協働の6原則（横浜コード）を定め、平成12年に市民活動推進条例を制定、平成24年には市民協働条例に全部改正（事例：全18区に地域子育て支援拠点を設置。公園愛護会は市内で約2,480団体が活動）
- 平成20年に「**共創**」の取組を開始し、民間企業等との公民連携を推進。民間提案窓口である共創フロントを通じ、これまで350以上の事業を実現（事例：イベント「ピカチュウ大量発生チュウ！」）
また、民間との包括連携協定や、広告・ネーミングライツ事業、PFI事業等を実施
- 横浜市には、**基礎自治体として市民協働・共創の精神が根付いている**。市民・企業等との協働による多様なワークショップを開催。様々なステークホルダーが出合って化学反応を起こし、様々な提案や盛り上がり生まれるなど、**市民力・企業力を活かした博覧会**を実現。



NPOと区役所の協働契約に基づき実施している
港北区地域子育て支援拠点「どろっぷ」



公園愛護会の
こども達による花壇づくり



横浜のロゴマークを生んだ「イマジン・
ヨコハマ」の国内最大級のワールドカフェ

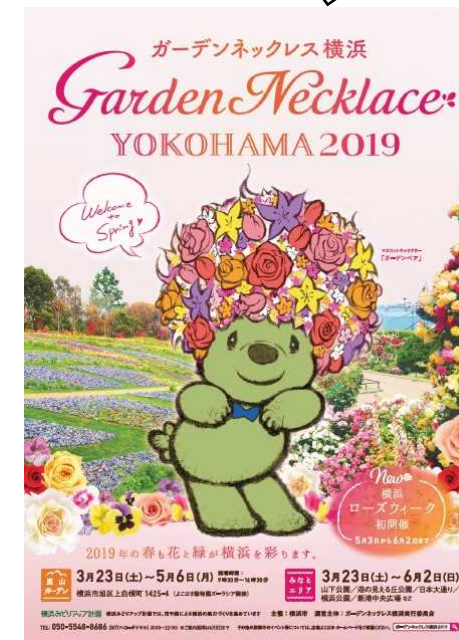
3 (1) コミュニケーション戦略 ③市民協働

- 2017年に600万人以上をお迎えした「**全国都市緑化よこはまフェア**」を継承する取組として、「**ガーデンネックレス横浜**」を市民とともに毎年開催。
- 横浜市には、**国際園芸博覧会を成功させるための市民の経験、機運、ネットワーク力**などのポテンシャルがあり、**ガーデンネックレス横浜の取組を更に発展**させ、博覧会の盛り上がりにつなげる
 - ・ 山下公園等の臨海部エリアや、里山ガーデンに加え、全18区で花・緑に親しむ取組を実施
 - ・ よこはま花と緑のスプリングフェア（山下公園）でのブース出展
 - ・ 日本フラワー＆ガーデンショウ（6万人）、ばらフェスタ（1万2千人）でのブース出展
 - ・ ガーデンツーリズム構成庭園、全18区の取組（オープンガーデン、駅前緑化等）でのPR など

ガーデンネックレス横浜2019チラシ
マスコットキャラクター「ガーデンベア」

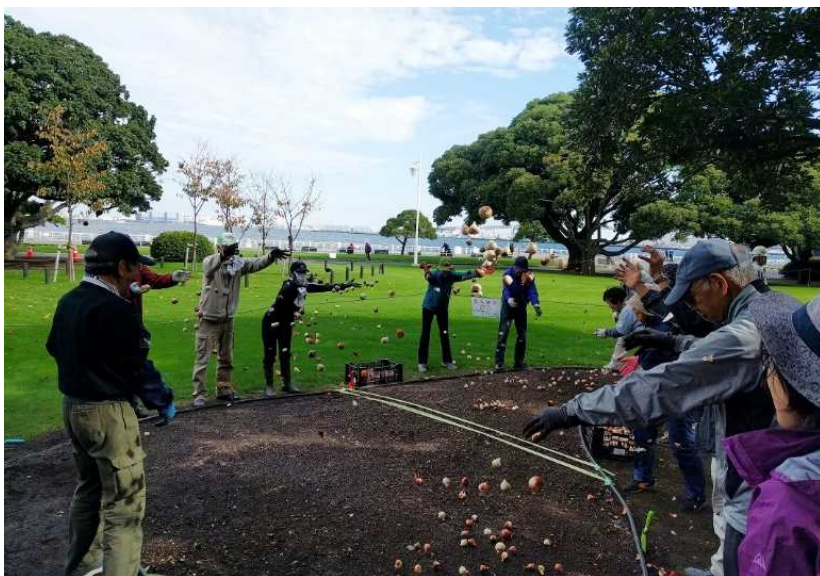
【市民力を活かした取組案】

- ～**球根ミックス花壇づくり**～ 公園愛護会の活動として球根ミックス花壇づくりを支援し、全市展開を推進。園芸博開会まで多くの市民による花壇づくりにつなげる。
- ～**種団子による花壇づくり**～ 子ども達が種、土、肥料等を団子にして蒔いて花壇に育成し、見守る活動を継続し、例えば園芸博で小学校代表校が取組を展示する。
- ～**防災花壇づくり**～ 公園での菜園作りや収穫祭イベントと炊き出し訓練等を通じ、地域コミュニティの醸成と災害時の自助共助につなげる。



3 (1) コミュニケーション戦略 ③市民協働

- 会場の旧上瀬谷通信施設内で**市民協働によるプレイベント**を数年前から開催し機運を醸成
 - ・ 瀬谷区最大のイベントである「瀬谷フェスティバル」・花と緑に関連した市民イベント
 - ・ 花や苗木を市民協働で育て、会場内に植栽など
- 横浜市の進める**文化芸術イベントと連携**し、数年前から花や緑をテーマにした音楽やダンス等のコンテストを開催
- 周辺の**商店街や自治体のイベント等**との連携
- **国の花や緑に関係するイベント**（緑の感謝祭等）との連携
- **東京2020オリンピック・パラリンピック**の関連イベント（ライブサイト等）との連携



球根ミックス花壇づくり



瀬谷フェスティバル (2019.10)

3. 横浜市の今後の取組について

(2) 国際園芸家協会（AIPH）春会議での 検討状況の報告

- ・場所：米国マイアミ
- ・時期：2020年3月2日（月）

(3) 「博覧会基本計画」の策定に向けた検討

- ・横浜市として、引き続き、国際園芸博覧会の事業展開、事業構成等の詳細を検討し、「博覧会基本計画」の策定に向けた準備を進めるとともに、会場整備に向けた準備を着実に推進

